



早稲田大学校友会設立125周年記念

破無礼^{はむれ} Hamlet

奥州幕末のハムレット

原作／W・シェイクスピア

The Shakespeare Company
シェイクスピア・カンパニー

日時 2010年6月19日(土) 16:30開演(15:30開場)

第一部:講演会・第二部:「破無礼」上演の二部構成

会場 早稲田大学 大隈記念講堂

入場無料 全席自由 予約不要

主催:早稲田大学 文化推進部文化企画課、坪内博士記念演劇博物館
協力:早稲田大学校友会



2010 早稲田大学校友会125周年

ともに世界へ ともに未来へ

奥州幕末版ハムレット、
シェイクスピアの言葉の海原を駆ける。

すつか、すねがだ。
なじょすつぺ…。

To be, or not to be, that is the question.

「坪内逍遙初め50種類あると言われる日本語に、新たに仙台弁が加わることになった(中略)東京のことばに慣れたものにとってはなかなか聞き取りが難しいが、音楽のように快い台詞だ。」
(朝日新聞天声人語)

写真:斉藤亮

第一部:講演「坪内逍遙のメッセージ」(30分)

シェイクスピア・カンパニー主宰 下館和巳

日本におけるシェイクスピア翻訳のパイオニアである坪内逍遙は、誰よりも早くシェイクスピア言語の多様性に着目していました。それは、方言の中にある多彩な可能性を探りながら翻案劇を作る我々の発想の源流ともなっています。坪内逍遙が私たちに残していった大なる遺産の今日的な価値について、当劇団の脚本・演出を手がける下館和巳がお話します。

第二部:「破無礼(はむれ)」上演(90分)

シェイクスピア・カンパニー

2006年3月に仙台で初演後、東北各地及び東京での公演で反響を呼んだ本作品をリニューアル上演します。歴史の転換点にあった幕末の奥州を舞台に、仙台藩主の嫡男・破無礼(はむれ)の葛藤と狂気を、古典的な仙台の言葉で激しく、そして哀しく語る、シェイクスピア・カンパニーの代表作です。

スタッフ

脚本・演出／下館和巳
構成・制作／山路けいと
音楽／橋元成朋
照明／松崎太郎
舞台美術／庄子 陽
舞台装置／梶原茂弘
千葉安男

ポスターデザイン／佐藤正幸
構想協力／丸山修身
菅原博英
鹿又正義

アドバイザー／松田公江
スーパーバイザー／大平常元

キャスト

岩住 浩一／天馬破無礼(ハムレット)
星 奈美／真田依璃亜(オフィーリア)
伏守 勇／天馬鞍有土(クローディアス)
長保めいみ／天馬雅藤(ガートルード)
両国 浩一／亡霊、真田礼亜(レアティーズ)
戸田 俊也／真田蓬呂(ポローニアス)、墓掘り
ササキけんじ／細谷帆礼(ホレイショー)
皆川 洋一／玉虫右太夫
長谷川 景／神谷草人

プロフィール

◆下館和巳:シェイクスピア・カンパニー主宰・演出家、東北学院大学教養学部言語文化学科教授。宮城県塩竈市出身、国際基督教大学在学中より演劇活動を開始、2度の英国留学を経て93年に劇団を設立し、すべての作品の翻訳・演出を手がける。2002年にはロンドン・グローブ座でアジア人初のアーティスティックフェローとして「Savage Sensuality」を演出。現在は、2010年秋に初演予定の「蝦夷オセロ」を執筆中。

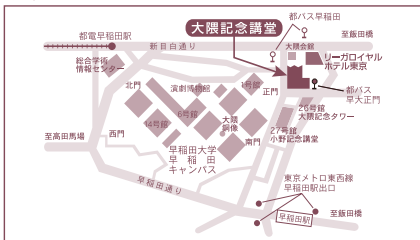
◆シェイクスピア・カンパニー

仙台にぬくもりのある本造の劇場を建設したいという目標を掲げ、1993年の旗揚げ以来、『ロミオとジュリエット』、『松島湾の夏の夜の夢』、『温泉旅館のお気に召すまま』他、数々の作品を発表。東北地方のことばと歴史を生かした翻案手法で注目され、『雪山の播磨蘇(マクベス)』(2000年)はイギリスのエディンバラ演劇祭でも上演し好評を博す。東京での公演は、2000、06、08年に続いて4度目となる。

問い合わせ

早稲田大学 文化推進部文化企画課 TEL.03-5272-4783(月~金 9:00~17:00)・Email:art-culture@list.waseda.jp

アクセス



◇JR山手線(高田馬場駅 徒歩20分) ◇西武線(高田馬場駅 徒歩20分)
◇地下鉄東京メトロ(東西線 早稲田駅 徒歩5分)(副都心線 西早稲田駅 徒歩17分) ◇学バス(高田馬場駅前・早大正門 徒歩1分) ◇バス(新宿駅西口→早稲田)(渋谷駅→早大正門)(上野広小路→早稲田) ◇都電(三ノ輪橋駅→早稲田駅 徒歩5分)